

第1回 学校保健委員会 報告

7月4日(水)に、第1回学校保健委員会を開催いたしました。学校医や大笹生学園の職員の方、保護者代表の方、本校職員が集まり、健康診断の結果や学校環境衛生検査の結果についての報告や協議を行いました。

協議「児童生徒の発達段階に応じた性に関する指導について」

学級担任に実施した保健指導アンケートの結果、「男女の体の違い」や「異性とのかかわり」について、課題や悩みと感じている教員が8割でした。2学期以降、養護教諭と連携しながら児童生徒への保健指導を進めていきます。

今回の学校保健委員会では、「児童生徒の発達段階に応じた性に関する指導について」をテーマとして3つのグループに分かれて協議を行い、それぞれのお立場から、様々な御意見や御助言をいただきましたので、御紹介いたします。

<学校医>

性の指導に早すぎることはない。小学部のうちから指導していくことが大切。

<学校医>

異性とのかかわりだけでなく、同性とのかかわり方も大切である。距離感を保つことができるように習慣化する。

鏡の前で並び、手を広げることで、視覚的に自分と他者との距離感を理解することができる。

<学校歯科医>

人とかかわるうえでのエチケットの面からもブラッシング指導は大切である。口臭等、相手に不快な思いをさせないことも大切である。家庭と連携を図りながら、学年が上がっても仕上げ磨きを続けていく。

<大笹生学園職員>

男女が分かれて生活をしているので、この数年、男女間のトラブルは起きていない。

<学校医>

「なぜ、こうするのか」を理解することが難しくても、習慣の中で覚えていくこともある。例えば、「なぜ、着替えを人に見せてはいけないのか」が分からなくても、衝立等の中で着替えをすることが習慣として身に付くことでも良い。習慣が正しい方向に向くと良い。

<保護者>

着替えの場所は、小さいころから気を付けていた。

<保護者>

小学部高学年になると、性への関心が芽生えてきた。ダメなことだと伝えるのではなく、時間や場所を確保していた。

<本校職員>

人前で着替える恥ずかしさを感じていない児童生徒もいるが、衝立を使用する等、着替える場所に配慮をしている。

